

教員名	若林 美佐知 (WAKABAYASHI Misachi)
所 属	人間文化研究科
学 位	博士 (人文科学) (お茶の水女子大学) / Dr. phil. (ウィーン大学)
職 名	リサーチフェロー
URL/E-mail	

## ◆研究キーワード

ドイツ現代史 / ドイツ軍 / ナチズム

## ◆主要業績

総数 (3) 件

- ・論文:「ナチ体制の政策決定要因をめぐる一考察—ドイツ占領下セルビアにおける抵抗運動対策をてがかりに—」、『現代史研究』第 51 号 (2005 年 12 月) に掲載。
- ・口頭発表:「ナチ・ドイツ占領下セルビアにおけるジェノサイド」、現代史研究会第 434 回例会 (2005 年 7 月、CGS「ジェノサイド研究の展開」との共催、シンポジウム「ナチ・ジェノサイド研究の現在」) にて報告。
- ・口頭発表:「ドイツ軍政下 (1941~1944 年) セルビアにおける『人的資源』の『調達』と『活用』」、ドイツ現代史学会第 28 回大会 (2005 年 9 月、シンポジウム「軍隊・戦争と社会」) にて報告。

## ◆研究内容

当面の研究課題は、ドイツ第三帝国 (1933~1945 年) の歴史のさまざまな側面を、ドイツ国防軍を軸に考察、分析することにある。時期としては、第二次大戦期 (1939~1945 年) を扱い、ドイツがどのようなやり方で戦争を遂行したか、そしてその中で軍部がどんな役割を果たしたかを実証的に明らかにし、分析することを通じて、ナチ体制における軍部の位置付けを行なう。具体例として、ドイツ軍によるセルビアでの占領政策 (1941~1944 年) を取り上げた。占領政策の諸側面の中でも、抵抗運動対策がどのような事情のもとで決定され、実施されたかについて、① 戦況、② ユダヤ人絶滅政策、③ 戦争経済との関連で考察し、この三点それぞれを整理してまとめた。これらの考察により、国防軍はナチ・イデオロギーを受容していたが、具体的な政策決定には、イデオロギーだけでなく、戦争がもたらしたさまざまな条件が影響していたという結論が得られた。

## ◆Research Pursuits

I research into the German army in the Third Reich (1933–1945). In order to show the position and the role of the army in the Nazi regime my papers deal with the German occupation policy in Serbia (1941–1944), where the military government was formed. My papers analyze the measures against the resistance, in connection with the war situation, the extermination of the Jews and the war economy. These analyses show:

- 1.The German army assimilated the Nazi ideology.
- 2.Also the factors which the war had caused influenced upon the decision-making.

## ◆将来の研究計画・研究の展望

ドイツ第三帝国における軍部について、研究を継続する。その際、考察と分析を深化させるためには、比較の視点が有益であり、必要である。占領政策に関しては、これまでセルビアの事例を取り上げてきたが、別の地域を扱うことになるだろう。あるいは、再検証の対象を、第二次大戦が始まる以前の時期の内政や外交に広げて、「ドイツ国防軍とナチ/ナチズム」の全体像の把握につなげていきたい。